

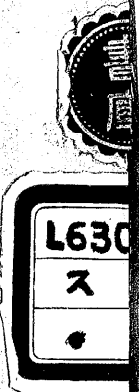
私立寿多館蚕業学校概覽

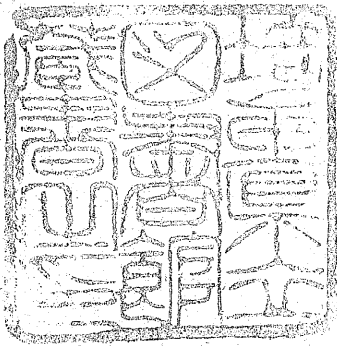
1920年2月



文部大臣
認可

私立壽多館蠶業學校概覽





7027

國家の中堅たる中産階級の家庭を

安全ならしむる教育として設立せる

私立壽多館蠶業學校の起因と趣意

養蠶の私は山村の小農家に生れ小學校を終ると直に家業の農桑に就きましたが當時吾父母の熱心に飼育しつゝある養蠶の年々失敗に歸し多からぬ財産に飲陥を來さんばかりとなり私は少年ながらも小にしては一家の活力たり大にしては國家の財源たる重要な事業なれば是非とも是の業を發展致し度く依ては先づ飼育の技術を會得せむと明治廿八年成進社蠶業傳習所に入りまして研究する事三ヶ年その後吾家の養蠶法を改良し始めて完全の成果を見るに至りました次で二ヶ年山梨縣郡内の島田村に養蠶の教師として成進社より派遣せられ十余戸を擔任しまして頗る良好の成績を得ましたがその内一月梶原氏の養蠶が兩年共に辛ふじて六七分作の不結果で有りましたれば職として苦痛の念に堪へざるのみならず同氏の爲には特に他に比して一層努力せしむるの如き結果を現したるはこれ蠶室の位置及び構造の關係と推考せるも其の原理を究むる事出來ず残念の至りでした茲に於て教師としては養蠶法の學理と實地と共に其の蘊奥を究めざれば却て國産を害し民業を倒すの憾あるを悟りまして驚足に一鞭を加へんと自ら發奮して措く能はず耕耘の余暇をぬすみて獨學自修し遂に西ヶ原蠶業講習所に入るとを得まして學理と實驗とを修得し卒業の後は吾家の蠶

受入
 38.9.3
 第五立立書部

室より飼育の方法を改善し漸く進展の緒を開くを得ました然るに吾地方には未だ蠶業の學理を講習するの機關なければ烏澁がましかれど我が修得せし學理と實驗とを廣く地方の青年に傳達し共に此の業の惠澤に浴するは隣里の生産を増し國家の富強を圖る一端ともなるべければと思ひたまして明治三十六年より壽多館蠶業傳習所を開き以來繼續する事十六年の久しきに及び其の間明治四十一年より三ヶ年の間成進社の屬附となり成進社飯能蚕業實習所と稱し實習に兼ねて學理の大意をも教授し尙模範蠶室及消毒庫などを新設し其の他の設備をも整へて明治四十四年には傳習規定の内容を改めて私立壽多館蠶業講習所と爲し學科を加へて蠶業専門の學理と實習との教養に努めました幸ひ年々に信用を得まして或は郡立農事講習所より生徒養成の委託を受け講習生は年々多くなり卒業生は皆自家の養蠶に精勵し其の成績何れも優秀にして自他共に幸福を得て現今に及びました尙蠶種の改良を計るは斯業に忠實にして之を精撰吟味するは公私の利益なりと推思しまして公衙の検査のみに頼らず進んで自力の精査を尽し養蠶者に分配しましたのでその苦心空しからず優良種として世人に認められ明治三十六年創始の際には其の試に製造したる額僅に平付三十枚なりしも現今は框製壹萬余枚の多きに達しましてこゝに幾分の利益を收むることになりました此利益を以て私腹を肥やすは素志にあらねばこれに家計の餘裕を加へて聊公共に貢献せんと思立ました時に恰も時勢の進達は益々産業の振興を絶叫し愈々實業教育の實現を要求して罷みませぬ

特に私は蠶業教育の必要を痛切に呼號して居りました然るに社會の形勢は各人各自の財産や資力を顧みず常に高等の學術を是只競ふ風習となりて國家の中堅と目さるゝ中産階級の家は追々に少なくなり貧富の二階級に偏向せんとして人心の動搖を胚胎する氣分を現はさうございましたが幸に政府の注意と社會の反省に依り實業教育専門の機關も其の數を加へられました但未だ中産階級以下の子弟の爲に備ふる適度の實業學校多からず殊に蠶業の如きは最も乙種程度の學校多數要するにも關はらず却て其の數の少なきは實に遺憾なる次第です將來蠶業は益々盛況を呈し農家は將に實の山に入らんとするに當り勞力は漸次不足を告げ勞銀は追々高く原料又騰貴して動もすれば蠶業經濟の基礎を危からしむるに至らんとして居ります此の時に於て原料を冗費せず勞銀を節減し陰鬱なる溪底の不適地に在る藪小屋的蠶室も高燥清涼なる好適地に建る理想的蠶室も共に其の養蠶の成績をして優劣撰ぶ處なく必然的に優良成績を得んとするには其素養を學校に求めなければなりません然して各自が技術の熟練と學理の應用とを飼育上に行なはなければ到底經濟的養蠶とはなりません故に蠶業の發展は乙種程度の蠶業學校が各地に多く興起することを希望しますけれども共今日の場合にては十年の後を期して待つといふ有様ですこの時に當り私の微力で獨立經營などは烏澁がましかれど先づ隗より始めよとの古事もありますれば奮發努力しまして大正七年の春四ヶ年計畫を以て私財四萬五千圓を投じて校地及實習地を設け校舍其の他の建物を増設し從

來の私立蠶業講習所の組織を革新して此學校を起しこれを畢生の事業としまして聊か國恩に報せんとて茲に時代の要求に適合すべく教育の主義方法を定め實地經驗と學理研究とを合せて應用に富む教育を施し將來斯業の發達に伴ふべき學術を中産階級の子弟に授けんとする趣意のあらましを記しました

壽多館主 須田 甚 作

教養ノ主義

一、殖産ニ忠實ナル良農タラシムルコト
營利ノ爲メニ君國ヲ忘レ名聞ノ爲メニ家産ヲ捨テ徒手千金ヲ獲シ一擧高冠ヲ戴ントスル投機的人士ノ多キ今日ニ當リ苟モ國家ヲ利シ家産ヲ益スベキ實着ノ方法ハ先ツ實業ニ忠實ナル強健ノ青年ヲ作り殖産ニ熱心ナル淳良ノ農士ヲ得ルニ有リ本校ノ教育主旨ハ此ニ存ス

一、志操ヲ強固ニシ業務ニ練達セシムルコト
實業ハ志操確乎トシテ勤勞ヲ繼續スルニ非ザレバ其ノ成功ヲ期スベカラズ又其ノ業務ニ熟練シテ努力シ經營スルニ非ザレバ其ノ利益ヲ收メ難シ故ニ生徒ヲ志操ヲ堅實ニ助長セシメ技能ヲ穩健ニ練達セシム

一、身体ヲ鍛鍊シ勞苦ニ堪ヘシムルコト

優秀ノ機械モ佳良ノ方法モ之レヲ使用スル上ニ勤勞ト努力トヲ加ヘザレバ其ノ効果ヲ充分ニ得ルコト能ハズ故ニ常ニ筋肉ヲ連續的ニ使用シ精神ヲ持久的ニ活動セシムル習慣ヲ造ラザルベカラズ是レ本校ガ心身鍛鍊ヲ學科ニ劣ラヌ必要トスル所ナリ

一、進取向上的氣象ヲ養ヒ蠶業界ノ先覺者タラシムルコト

蠶業ノ進歩ハ其變遷實ニ急ナルモノアリ故ニ進取向上ノ實ヲ執ラザレバ少費多穫ノ道ヲ進ム能ハス而シテ常ニ先覺者タラサレバ生存競争場裏ニ優勝者タルヲ得サルナリ

一、常識ヲ養へ實際的蠶業家タラシムルコト

蠶業ハ如何ニ文明的經營ニシテ成果優秀ヲ極ムルモ經營法ニシテ經濟的ニアラサレバ即チ徒勞ニ歸スベシ故ニ實習ハ經濟ヲ基トシ學理ハ應用ヲ機軸ニシ零碎ノ利害モ了解スルノ常識ニ富ム實用的人材ヲ養成スルニアリ

教授ノ方法

一、生徒ヲ分チテ三種トス
本科 二ヶ年ヲ以テ卒業 學理ト實驗トヲ教授ス
別科 一ヶ年ヲ以テ卒業 學理ト實驗トヲ教授ス

專科

但シ斯業ニ經驗アルモノヲ入學セシメ速成セシム
專ラ蠶業ニ關スル技術ノ實驗ヲナサシム
半ケ年ヲ以テ卒業
尙技能ノ優秀タランコトヲ望ム者ニシテ別科卒業生ハ本科二年生ニ本科專科ノ
卒業生ハ再度入校シテ研究スルコトヲ得

一、學年ナ二期ニ區別ス

前期 四月一日ヨリ九月三十日ニ至ル間實習ヲ主トシ傍ラ學科ヲ教授ス
後期 十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル間學科ヲ主トシ傍ラ實習ヲナサシム

一、學科ト實驗トヲ偏重ナカラシム

養蠶ハ春夏秋冬ノ三季ニ亘ル業ナリ然レ共全學年ヲ兩期ニ等分シ前期中ハ飼育ノ練習ヲ主トシ後期
中ハ學理ノ研究ヲ要トス尙學力ト技術トノ偏重ヲ恐ルヽノミナラス實地ニ疎ク口才ニ富ム者ヲ出
シ易キ弊ヲ防ク爲ニ前期中ハ授業時間ヲ定メス終日實習ニ當リ(日曜及休日ハ都合ニ依リ休ムコ
トアリ)夏期休業モ三週日以内ニ止メ専心技術ノ修養ニ努力セシム是レ本校生徒ガ他ノ形式的飼
育法ヲ修メタル者ニ比シテ優秀ノ點アル以所ナリ

一、勤勞ノ神聖ナルヲ自覺セシメ其ノ効驗ヲ悟了セシム

凡テ實習ハ勤勞ヲ尙ビ其興味ヲ喚起セシムルニアリ特ニ養蚕ハ殆ド晝夜兼行ノ業務ニシテ蚕兒ノ
發育モ亦寸時ノ怠慢ナシ故ニ勤勉ノ精ヲ積ミ勞力ノ効ヲ累ネテ後ニ善ク優等ノ良繭ヲ收メ得テ茲

ニ膏汗ノ價値ヲ現ハシ自働自樂ノ趣味ヲ自覺セシムルナリ

一、實習ヲ綿密ニ技術ヲ速達セシム

養蠶ニ於テハ時々氣候ノ變化刻々蠶兒ノ狀況ニ依リ執ルベキ技術ノ方法ヲ臨機應變的ニ一々説明
シツ、實際ニ就キテ教授ヲ爲シ生徒ヲシテ學理ノ應用ヲ機敏ナラシムルヲ以テ技術ノ熟達速カナ
リ故ニ標準表ノミニ寄テ畫一ノ飼育ヲスル他ノモノト比較スベキモノニアラサルナリ是レ本校生
徒ガ卒業後自家養蠶ニ好結果ヲ得ルハ即チ之レガ爲メナリ

一、學科目ノ多キコト

乙種學校ト云ヘバ學科ノ程度低キモノト考ルモノハ誤解ナリ本校主要學科ハ甲種蠶業學校ト同様
ノ教科書ヲ用ヒ授業時間ヲ一週四十二時間延長セリ故ニ他ノ筆記ヲ以テ教授スル教授法ヨリ其
功程ノ進ムコト勿論ナリ而シテ可成多クノ學科ニ亘リ教授スルノ方針ヲ探レリ之レ生徒ヲシテ卒
業後社會ニ立テ活用ノ範圍擴キニ備フルガ爲メナリ

一、全年實習ヲ怠ラズ

學校ヲ去リ自家ニ歸リ直ニ學ビタル所ヲ實現シテ利益ヲ完全ナラシメンニハ養蠶ノ前後終始實習
ヲ要スルナリ目下世間ニ於テ學校出身ト言ヘバ理論ニ詳シク實際ニ疎キモノト認メ居レリ是レ等
ハ學校ノ仕事ト家庭ノ仕事トノ間ニ收支償ハサル經濟上及時間上ノ關係アルガ爲メナリ故ニ本校

ハ蠶兒ノ飼育桑園ノ整理苗木ノ製造又ハ植付肥料ノ施與害虫ノ驅除蠶具ノ製作等全年ヲ通ジテ寸時モ實習ヲ忽セニセザルナリ

特殊ノ施設

一、學校ハ自利自營タラシメントス
中産階級以下ノ農家ノ經濟ヲ基トシタル上ニ蠶業ヲ發展セシム可ク館主ガ創立セルモノナレバ本校ハ一家ヲ累疊シタル團體トモ見做サルベシ故ニ教師生徒ハ一大家族ノ如ク栽桑養蠶其ノ他總テノ實驗ヲ共ニ寢食ヲ同フシ師弟共同努力シテ實際ニ習得セシムル間ニ精美ノ良繭ヲ收メ隨テ正當ノ利潤ヲ生シ之レヲ以テ經營ノ資ヲ助ケ外ハ學校ノ体面ヲ保チ内ハ學業ノ實質ヲ進メ獨立自營ノ設備ニ向フ故ニ本校ノ經營ハ猶一家ノ經營ノ如ク生徒ガ自家ニ歸リ蚕業ノ經營ヲナストキノ模範トナルナリ

一、生徒ハ自働自活タラシメントス

生徒ガ眞面目ニ自働自活シテ自己ヲ教養セラル、方法ヲ講スル學校ハ天下稀ナルコトハ世人ノ知ル所ナリ本校ハ實地修養ノ爲メニ師弟共ニ作業スル努力ノ價值ヲ集メ校舍ノ維持ヨリ生徒ノ食費等ニ支給スルナリ故ニ桑樹ノ栽培ニ蚕兒ノ飼育ニ一歩ヲ誤ラバ學校ノ盛衰ニ關スルコト他校ノ比ニ非ラス是殊ニ寢食ヲ忘レ飼育ニ努力スルト共ニ切實ノ研究トナルナリ

一、生徒ハ少數ヲ要ス

蠶業學校ニ於テ懇切ニ實習セシメンニハ教師自ラ實際的ニ技術ノ範ヲ示シテ生徒ヲ指導シ纖細ニ教授セサルベカラズ即チ飼料ノ處置飼育ノ方法等未熟ノ生徒ヲ指揮シテ良成績ヲ擧ゲテ後ニ始メテ効果アル教授ト云フベシ此ノ如クニセンニハ何如ナル有力ノ教師モ多數ノ生徒ヲ受持得ラル、モノニ非ラズ故ニ本校ハ教師一人ニ生徒四五名ヲ適度ト認メ多クモ七八人ヲ限度トス

一、教材ヲ豊福ナラシムルコト

豊福ノ材料ヲ與ヒ生徒ノ手腕ヲ十分ニ發揮セシメントハ本校ノ主ナル目的ナリ故ニ養蠶飼育技術ニ於テハ生徒一人一回ニ蠶量ニ勿宛ヲ擔當シ春秋晩秋ノ三回ニ飼育セシメ繰返シ練習セシムルヲ以テ技能ノ熟達速ニシテ一ケ年ニ其ノ要領ヲ會得セシメ桑園ハ一人百五十歩ヲ擔當シ尙桑園増設ノ中ニアリ之レガ完成ノ上ハ生徒ノ能力ニ應ジ尙實習ノ能率ヲ向上セシメントスルニ至ランカ到底ハ普通養蠶家一人力ノ作業ニ優ル程ノ實力ヲ備ヘシメントス

一、主要學科ニ重キヲ置クコト

教科目ハ一トシテ輕視スベキモノナシ然レトモ僅々二ケ年ノ短期間ニ學理ト實習トヲ完全ニ修ムルニハ容易ナラズ故ニ蠶業ニ直接關係アリ常識ニ必要ノ學科ハ自ラ重要視セラルベシ彼ノ中學ノ英語ニ於ケル進ンデ高級ノ學校ニ入ルニハ重要ニシテ退テ野ニ耕スニハ其ノ用途少ナキコトハ人

ノ知ル所ナリ

一 學資ヲ輕減シテ生徒ヲ優遇ス
 授業料不徴、前期中食費支給、實習服無償貸與且ツ後期中寄宿自炊スルモノニハ宿舍料ヲ免除シ薪炭ヲ補助スル等學資金ヲ輕減シテ生徒ヲ優遇ス

一 卒業生ノ向上ヲ助クルゴト
 卒業生ノ自家ニ歸リ養蚕ニ從事シ又ハ養蠶教師ニ出張スル場合ニハ本校ヨリ養蠶中時々實習教師ヲ出張セシメ技術上ノ輔導ヲナス是レ本校ハ責任ヲ以テ生徒ヲ養成スルノ以所ニシテ一面養蠶ハ農家經濟ノ利害ニ關スル處大ナルレバ其成績ノ優秀ヲ必期セシメ以テ卒業生ノ技術ノ向上ヲ助クルガ爲メナリ

一 寄宿舎ハ規則ヲ寬ニシ道義ヲ重ンズル風儀ヲ造ルコト
 規則ハ寬ニシテ正シク之ヲ守ルヲ要ス是レ道義ヲ貴ム舍風ヲ養成セシメテ生徒各自ガ家庭ニ在ル如ク長幼相睦ミ和氣霽々ノ間ニ品性ヲ陶冶シ技藝ヲ助長セシムルニアリ

一 寄宿生ヲシテ自治的一家族タラシメ家事經營ノ志操ヲ養ハシム
 學生時代ニハ家事經營ノ念慮ニ乏シキヲ常トス故ニ本校ハ寄宿生ヲシテ一家族ノ如ク順番ニテ入浴ノ準備食事ノ調理費用ノ計算舍内外ノ掃除其ノ他臨時ノ出來事ニ至ルマデ自カラ治メシメ以テ

家事經營ノ一班ヲ自習セシムルニアリ

學 科

科	理	數學	漢文	國語	修身	科 目		別 科	專 科
						年 本	年 科		
		新編動物教科書 三宅驥一 野原茂六 小南 清 共著	新編算術教科書 佐藤寛次 共著 戸崎半藏 共著 珠 算(筆記、實習)	新定漢文讀本 岡田正之著	改定新撰實業讀本 佐、政一著 中學校用習字教科書 西脇吳石著 作文口述	實習修身訓 柳次政太郎著	同	同	同
		新編植物學教科書 三宅驥一 野原茂六 共著	同	同	同	同	同	同	同
		生理衛生教科書 額田 豐著	農業簿記教科書 大原信久、山邊常重共著	同	同	同	同	同	同
		現代理科學教科書 開成 館著							

理	新編鑛物地質學教科書 小川琢治著	同	再訂實用土壤學 菊地謹彌著	同	
科	初等物理學教科書 田丸卓郎著	同	增訂最新肥料學教科書 船津常吉著	同	
農	最近作物通論教科書 岡村猪之助共著 岡崎寅吉著	同	增訂新編作物害虫教科書 佐藤寛次福井武治共著	同	
業	最近農業經濟教科書 岡村猪之助、岡崎寅吉 岩田徳太郎共著	同	增訂新編作物病害教科書 佐藤寛治福井武治共著	同	
經		法制經濟教本 土屋良道著	一年下同一		
養蠶	養蠶法教科書 土屋泰著	養蠶汎論教科書 土屋泰著	養蠶教科書 土屋泰著	新編蠶業教科書 土屋泰著	
蠶體解剖	蠶體解剖教科書 石渡繁胤著	蠶體生理教科書 池田榮太郎著	蠶體生理解剖教科書 石渡繁胤著		
蠶生理					

蠶病	蠶病教科書 岩淵平介著	蠶病教科書 岩淵平介著	蠶病教科書 岩淵平介著	
桑樹栽培	桑樹栽培教科書 池田榮太郎著	栽桑教科書 池田榮太郎著 桑樹病虫害教科書 明石弘著	殺蛹、乾繭、貯繭、口述	
製絲	殺蛹、乾繭、貯繭、口述	製糸法教科書 三谷徹著	殺蛹、乾繭、貯繭、口述	
顯微鏡	口述	同	同	
使用法	口述	同	同	
氣象學	口述	氣象學 口述	同	
遺傳學	口述	遺傳學 口述	同	
消毒法	消毒法口述	消毒法 口述	同	
審査法	蠶種、繭、生糸審査口述	蠶種繭生糸審査法口述	同	

習	各科ヲ通ズ	各科ヲ通ズ	各科ヲ通ズ	
實	春夏秋養蠶 製種 蠶體解剖 顯微鏡使用 蚕種検査 殺蛹 乾繭 貯繭 消毒 蚕種繭、生糸 審査 桑樹栽培 蚕具製作	春夏秋養蠶 製種 蠶體解剖 顯微鏡使用 蚕種検査 殺蛹 乾繭 貯繭 消毒 蚕種繭、生糸 審査 桑樹栽培 蚕具製作	春夏秋養蠶 製種 蠶體解剖 顯微鏡使用 蚕種検査 殺蛹 乾繭 貯繭 消毒 蚕種繭、生糸 審査 桑樹栽培 蚕具製作	

受持學科	資格	氏名 (イロハ順)
修身、經濟、讀物、物理	師範學校教員免許	堀内堅之助

漢文、讀方 綴方、習字、算術、珠算 化學、農業、經濟 作物通論、製絲法	人體生理	病動物物理	動物害物	植物害物	養蠶 蠶體解剖法 蠶業理論 蠶體生理 桑樹栽培法 審査	遺傳、消毒法 土壤、肥料
埼玉縣師範學校卒業 京都高等蠶業學校卒業	帝國醫科大學卒業	上田蚕絲專門學校卒業	東京蠶業講習所卒業	上田蠶絲專門學校卒業		
高山茂重	山川一郎	八木誠政	須田甚作	須田今三		

地質、鑛物 氣象		
一、卒業生資格 蠶業ニ關スル縣吏員、郡町村技手、養蠶教師、蠶種製造者タルヲ得		
一、入學及其ノ資格 一 本科ハ修業年限二ヶ年ノ高等小學卒業若シクハ之レト同等以上ノ學力ヲ有シ十四年以上ノ男子タルモノ 一 別科ハ尋常小學卒業以上ノ學力ヲ有シ十六年以上ノ男子タルモノ 一 専科ハ多少養蠶ニ經驗アリテ十六年以上ノ男子タルモノ 一 入學願書 前期ヨリ入學者ハ三月末日、後期ヨリ入學者ハ九月末日迄ニ願書ヲ差出スコト 一 入學試験 左記ノ項目ニツキ本校ニテ之レヲ行フ 一 體格、一常識、一學力		
一、學資 一 授業料 徵集セズ		

- 一 食費 前期中ハ(自四月至九月)全部ヲ支給シ後期中ハ(自十月至翌年三月)寄宿生ニハ食費ヲ自辨セシム(原料ノミト見ルベク大約一ヶ月拾圓)
- 一 實習服 全校生徒ニ無償ニテ貸與ス
- 一 教科書代 本別科ハ一ヶ年通シテ約八圓其他筆墨紙代約五圓専科ハ教科書ヲ要セサルヲ以テ三圓内外ニテ足ルベシ
- 一、本年募集生徒數
- 一 本科、別科、専科ヲ通シテ三十名トス

(樣式)

入學願書

(用紙半紙)

府縣郡町村大字番地
 族籍職業又ハ戶主トノ續柄
 氏名
 生年月日
 右氏名印
 年 月 日

右私儀御校本科(別科、専科、研究生)ニ入學志願ニ付キ御許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段御願候也

府縣郡町村大字番地

族籍職業

保證人氏名印

私立壽多館蠶業學校長須田須作殿

(樣式)

履歷書

府縣
 族籍
 氏名
 生年月日

學業

一 何年何月ヨリ何年何月マデ何處學校ニ於テ何々卒業
 一 何年何月何學校ニ入學何年何月何々學科修業

職業

一 本人若シクハ父母何々業

賞罰

一 何年何月何處ニ於テ何々ニ付キ賞又ハ罰ヲ受ケ

右ノ通り相違無之候也

右 氏名印

在學証書 (用紙半紙)

府縣郡市町村大字番地

族籍職業戶主又ハ戶主トノ續柄

氏名

生年月日

三錢印紙

右ノ者今般御校へ入學許可相成候ニ就テハ御校則確守致ス可キハ勿論故無ク退學致ス間敷ク尙本
人在學中ハ其ノ一身上ニ關スル事件ハ一切保証人ニ於テ引受ケ申可ク候仍テ保証人連署ヲ以テ在
學證書差出候也

右 本人氏名印

府縣郡市町村大字番地

族籍職業

保証人氏名印

私立壽多館蠶業學校長須田甚作殿

認^{文部大臣}可^認私立壽多館蠶業學校一班

位置 埼玉縣入間郡飯能町

名稱 私立壽多館蠶業學校

設立者 埼玉縣入間郡飯能町 須田 甚作

認可年月日 大正七年三月廿二日

開校年月日 大正七年四月十五日

設備

敷地 壹千百十九坪

建坪 五百五十三坪 (内譯左ノ如シ)

本館 二階建 一棟
階下 玄關 事務室 會議室 食堂 使丁室 實習室
階上 應接室 職員室
廊階下 圖書室 實驗室

標本室 一〇〇坪
應接室 六二五坪
宿直室 六七〇坪
雜具場 三〇〇坪
廊下其他 三三五坪
五 四 三 九
四 〇 〇 〇
三 〇 〇 〇
九 二 五

事務所 二階建 一棟
階下 應接室 職員室
階上 圖書室 實驗室
廊階下 圖書室 實驗室
宿直室 三坪

校舍兼蠶室	二階建	一棟	階	下上	六二〇〇	
蠶室	二階建	一棟	階	下上	三三〇〇	事務室
作業室	二階建	一棟	階	下上	三三〇〇	劉桑場
應接所	平屋建	一棟	廊	下下上	九〇〇〇	九〇〇
寄宿舍	二階建	一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
乾燥場	平屋建	一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
土藏	二階建	一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
瓦斯消毒庫		一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
便所		二棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
蒸氣消毒所		一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
浴場		一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
肥料舍		二棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
炊事場		一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
畜舍		一棟	階	下下上	六六〇〇	六六〇〇
外上簇室	三ヶ所合計				一四二〇	

本校設備擴張計畫ノ大要 (大正九、十年度)

實習用桑園

一、四町九反九畝二十九步

內譯

春蠶用桑園 一町五反七畝三步
秋蠶用桑園 三町四反二畝二十六步

一、器具機械類

養蠶器具 理化學器具 消毒用器具 農具其他一〇六五〇点

經費 大正九年度豫算

收入金二万二百七拾圓也

內譯

一、授業料 無シ
一、設立者負擔金 金二万二千二百拾圓也
一、雜收入 金八千圓也

講堂 平屋一棟 二十八坪 作業室 平屋一棟 二十坪 物置 平屋一棟 十八坪

支出金二万二百七拾圓也

内

譯

一 校給 金三千六百六拾圓也

一 職員退職基金 金一千三百九拾圓也

一 差引殘ナシ 金六千三百十圓也

金五十圓也

職員

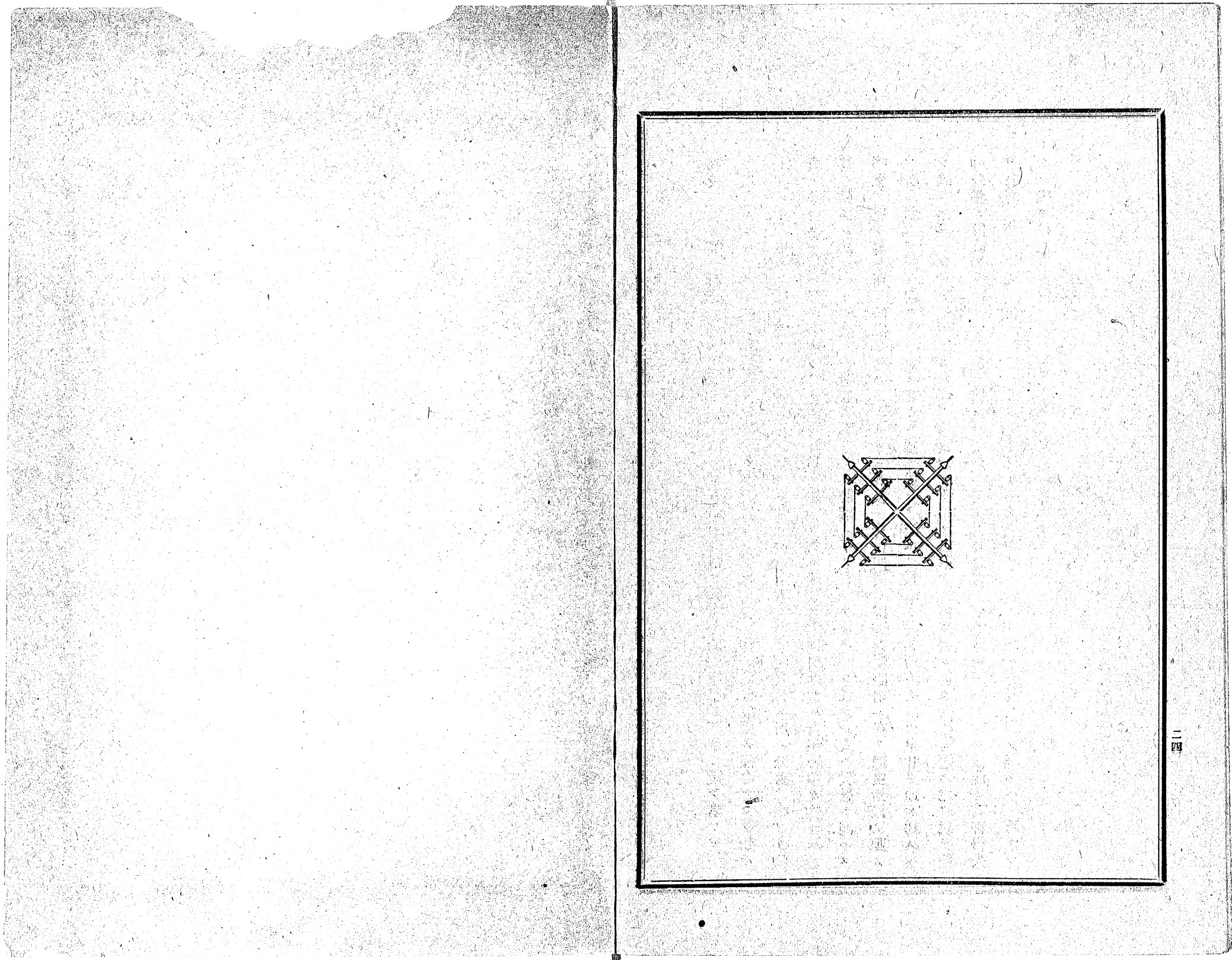
校長兼教諭	農商務省東京蠶業講習所卒業	一	名
教諭	帝國醫科大學卒業醫學士	一	名
教諭	師範學校教員免許	一	名
講師	埼玉縣師範學校卒業	一	名
書記	京都高等蠶業學校卒業	一	名
書監	上田蠶糸專門學校卒業	一	名
舎醫	千葉醫學專門學校卒業	一	名

生徒及卒業生

第一回卒業生	別科十八名	(大正七年度)
現在生徒	本科別科通シテ三十一名	(大正八年度)

學校位置概況

我が校ハ飯能町ノ西一里程ノ山阪ニ在リ故ニ世人或ハ位置ノ僻在ヲ論シ通學ノ不便ヲ説ク者アリ是
 一 理ナキニハアラス然レモ血氣未定ノ青年ヲ教育セントスル者ハ特ニ社會感化ノ強力ナルヲ知ル
 ト共ニ土地風水ノ感化亦至大ナルコトヲ知ラサルヘカラス蓋交通ノ便利ナル所ハ壯大ノ觀アリ物
 資ノ集合スル地ハ愉快ノ趣アリテ人ノ耳目ヲ奪フカ爲ニ腦漿ノ鞏固ナラサル青年ハ事々物々ニ心
 情ヲ動搖シ易シ今ヤ繁盛ノ市殷賑ノ町トシテ誘惑ノ手ノ有ラサルハナシ且ソレ人ハ賢愚ヲ問ハス
 嗜慾ヲ充シ易キ所ニ缺點ヲ生スルナリ幸ニ我が校ハ青山四周ヲ圍ミ碧溪眼前ニ在リ清風新緑ヲ動カ
 シ明月老樹ヲ照シ仰キテ浩氣ノ高キヲ望ミ伏シテ流水ノ潺湲ヲ聞ク所謂風清ク泉甘キ地ト稱スヘ
 シ故ニ煙塵至ラス微氣生セス奢侈ノ物質無ク質朴ノ風俗アリ尙經濟ニ善ク衛生ニ適ス之ヲ以テ精
 神教養ニ價値アル地トシテ自ラ信スル所ナリ苟モ青年教育ヲ研究スルモノハ能ク彼此ノ利害得失
 ヲ打算シ來ラハ大ニ悟ル所アルナラン豈只少シク通學ノ不便ト土地ノ僻在ヲ以テ論スヘキ所ナラ
 シヤ况ヤ校内ニ寄宿セシムル生徒ノ父兄ニ於テヲヤ



大正九年二月一日發行

